

# 視聴覚メディア部会

## 第3学年 音楽科学習指導案

指導者 千葉市立こてはし台小学校 相葉恵

- 1 題材名 共通教材 こころのうた  
教材名 『ふじ山』

### 2 音楽科について

#### (1) 学習指導要領より

音楽科の目標は以下のとおりである。

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

「表現及び鑑賞の活動」を通して、次のことを育てる。

- ①「音楽を愛好する心情」
- ②「音楽に対する感性」
- ③「音楽活動の基礎的な能力」
- ④「豊かな情操」

#### ③の「音楽活動の基礎的な能力を培う」とは

指導要領に示されている第3学年で身に付けたい音楽の基礎的な能力は、次の通りである。(一部抜粋)

#### 2 内容

##### A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。

- ア 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌うこと。
- ウ 呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。
- エ お互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

歌唱では、新譜を必ず扱う。今回の授業の中では、下記のように扱う。

##### ①新譜を扱う方法

今回の「ふじ山」を聴いたことのある児童はたくさんいると思われる。しかし新譜なので、次の手順を踏んでいく。

1. 黙って聴かせる。
2. 小さな声で歌う。
3. 立って大きな声で歌う。
4. 歌い出しの指導を入れていく。

1回目は「ア 範唱を聴いたり」とあるように曲を静かに黙って聴かせる。その時、歌詞をしっかりと目で追うようにする。こうすることで「イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫」の第一段階として歌詞の内容を子どもの中に入れていくことができる。2回目は歌詞を確認しながらリズムを覚えていく。そして3回目でやっと歌うのだ。

この3段階を踏むことで、子どものやる気呼び起こし、「歌いたい!」という気持ちを引きだして

いく。曲が流れると知らない曲でも自然にリズムを刻んだり、歌詞を見ながら口を開けて歌おうとしたりする姿が見られる。指導要領にも、楽しく関わる活動の必要性が書かれている。

この段階を踏むには意味がある。歌詞を頭にいれるからである。

9歳（小学校3年生）までは、音楽を外から見る表現や鑑賞を目的にするのではなく、それを可能にする音楽の基礎能力を育てることを重点にし、教材曲は、歌いこなし、覚えてたくさんの音楽財産を豊富にするべきだと考えている。

（「ふしづくりで決まる音楽能力の基礎・基本」より）

そのめやすとして、「300曲は歌詞を見ないで歌えることが望ましい」とも述べている。それが後述する「音楽活動の基礎的な能力を培う」ことにつながっていく。一つの曲の中には様々な音楽的要素（旋律・リズム・強弱・速さなど）が含まれている。それを300曲も歌える、覚えているということは、子供の中にこれらの音楽的要素がインプットされている状態をつくるということになる。

音楽的要素がインプットされている状態は、子どもたちの中に音楽的要素が身体感覚として備わっているということである。よって、表現するときにはそれをアウトプットしていけばよいので自然に出てくるようになる。

## ②能力をつける上で必要な「楽しさ」

児童が楽しく音楽とかかわる活動を通して、音楽の諸能力を経験的に身に付けるようにする必要がある。

（指導要領の解説より）

音楽の能力を身に付ける前の大前提として、子ども達を「楽しい！」という気持ちにさせる必要がある。楽しみながら声の出し方、楽器の演奏の仕方を身に付けることができれば、思いや意図をもって歌ったり、演奏したりすることができる。

音楽が好きな子どもは多い。しかし、「音楽は好きだが、音楽の授業は嫌い。」だという子が多くいた。「音楽の授業で音楽が嫌いになった。」という子さえいる。では、楽しく音楽活動の基礎的な能力を培うためにはどうしたらいいのか

音楽のよさを味わう。それには、教師がまず楽しむ。そして音楽はどういうものか、その知識を教え、歌い方を教え、自信を持たせていく。それも褒めたり、声をかけたりしながらである。「私にも、歌える。」「ぼくにもできる。」という自己肯定感が何よりも「楽しい」という気持ちに直結していく。

## （2）「楽しい」状態にするための「表現及び鑑賞の活動」

### ①授業をコマとパーツで組み立てる

「楽しい」状態にするために、コマとパーツで授業を組み立てる。

コマ→ 授業時間を細かく分けて「小さな活動」をすること。

パーツ→ 「選りすぐられた方法・技術」のこと。

指導要領の解説には、「具体的には、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の四つの活動からなっている。つまり、多様な音楽を幅広く直接体験することが基になっている。」と書かれている。

多様な音楽を幅広く身に付けていくために、四つの活動を一時間の中に入れていく。今日は歌、今日はリコーダー、今日は鑑賞という、週1～2回の授業では四つの活動ができず、抜け落ちる所が出てきてしまう。また後でも述べるが新しいことばかりだと、子ども達に力はつかない。覚えていることができないのだ。つまりは身に付かない。

そこでコマとパーツで指導をする。今回の授業でも1つのコマをおよそ5分に設定し、5分以上になるものは、さらに中身を細分化していく。

このように進めると、子ども達は飽きずに楽しんで音楽の授業に取り組む。また、毎日の積み重ねで

少しずつ新しいことを入れていくので子ども達も安心して授業にのぞむことができる。

今回の授業でも多くのコマを入れていく。基本は5分刻みで行う。リズムをつけるために行う「リズムカレンダー」。リコーダーのきまりを徹底させるために確認する「リコーダーのきまり」。全員にきれいな音を出させるための「真似吹き」。曲をじっくり聴く鑑賞の時間である「無の世界」。ふじ山の歌い出しの指導など、今日は鑑賞、今日はリコーダー、今日は歌という分け方をせずに取り組んでいく。このようにさまざまなこと（歌・鑑賞・楽器・リズム打ちなど）を一時間で行って、子どもたちは楽しそうに授業を受けている。

今回の授業でも全員ができるようにするために、スモールステップで進めていく。出だしの「あ」を出すのに、5つ以上のステップを踏んでいく。一度に多くのことを教えると子どもの中に入っていかない。しかし、小さなことを一つずつ達成していくことで、進んで歌を歌うようになる。

## ②「楽しい」気持ちが「音楽を愛好する心情」を育てる

これは生涯を通して音楽を愛好し、生活の中で音楽を親しむ態度を育てることである。先ほども述べたが、音楽が好きな子どもは多い。しかし、音楽の授業で音楽が嫌いになったという子が少なくない。そのためには、何よりも次のことが大切である。

何よりも大切なことは、児童が楽しく音楽にかかわり、音楽を学習する喜びを得るようにすること

(指導要領の解説より)

教師が楽しい雰囲気を作り出し、子ども達を授業に巻き込んでいく。

やはり「楽しい」→「好き」は自然な流れである。さらに「音楽を学習する喜び」を得るために、「ふじ山」の歌い出しで個別評定を入れていく。できているか、できていないかをその場で評価し、その時間にできるようにさせていく。子ども達は何が正しくて何が違うのかをはっきり知ることができる。今の声の出し方があっているのかをその瞬間に体感することで、声の出し方を覚えていく。また、できていなかった子もその時間には必ず合格させる。1時間で「できる喜び」を得る。

## ③授業時間いっぱい、音楽に触れることで「音楽に対する感性を」育てる。

美しいものに感動する柔らかい感性を育てることである。

その感性をつけるには「リズム感、旋律感、和声感、強弱感、速度感、音色感」などを身に付けることが基盤になっている。これはすぐに身に付くものではない。毎回の授業で取り入れていくことで身につけていくものである。

## 4 児童について

省略

## 5 仮説との関連

視聴覚部会主題

自ら解決できる力と 生きる力を育てるメディア教育

主題について

「自ら解決できる力」「生きる力」とは何なのか。

「自ら解決できる力」→自分自身でうまく処理する力、自分自身でうまく処理することを可能にするもの

「生きる力」→効果やはたらきをじゅうぶんに引き出すことを可能にするもの

(広辞苑より)

「生きる力」は学習指導要領には下記のように書かれている。

変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、基礎・基本を身に付け、いかに社会が変化しようと、

- (1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- (2) 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- (3) たくましく生きるための健康や体力

視聴覚部会の主題である「自ら解決できる力」とは、学習指導要領の(1)に相似している。この部会では、特に(1)に焦点を当てていると考える。

つまり、この視聴覚部会として育てたい力は、

- ①自ら課題を見つける
  - ②自ら学ぶ
  - ③自ら考える
  - ④主体的に判断する
  - ⑤主体的に行動する
  - ⑥よりよく問題を解決する
- の6項目であると考えます。

#### 【仮説】

それぞれの教育メディアの特性を生かして学習に活用すれば、情報活用能力が高まり、意欲的に学ぶ子が育つだろう。

「意欲的に学ぶ子」を育てるとは

「意欲的に学ぶ」とは…「積極的に学ぼうと思う気持ちにあふれている状態」のこと(広辞苑より)だという。

今回授業を行う音楽で「意欲的に学ぶ」ことを定義すると、

電子機器を使うことによって、自分から声を出して歌ったり、演奏したりしようとする。となる。

このような状態になるために、音楽の時間が楽しいと感じることが必要だと考える。電子機器の特性を生かし、楽しいと感じる方法を下記に示していく。

#### <電子機器を生かした学習方法>

それぞれの電子機器の特性と、それを利用した今回の指導法を述べていく。

(1) インターネットを使ったリズム打ちで全員を巻き込める。

リズム打ちで、「リズムカレンダー」というものを行う。その時にプロジェクターで映して使う。

これはインターネットと接続したサイトを使う。電子黒板を使うことの利点がある。

教師がリズムを刻んで「リズムカレンダー」を行うことがある。しかし、人間なので一定のリズムとはいかない。速くなったり、遅くなったりする。このリズムカレンダーを使うと、ワンタッチでリズムを変えることができ、メトロノームのように一定のリズムを刻むことができる。リズムが流れ続けているので、子ども達は自然に体でリズムをとり、音を楽しむことができる。

オルガンを使うことに比べて大きな利点は(3)に示す。

(2) タッチパネルなので、常に子どもに緊張感がある。

自学級では、教師の目線から外れると、授業に集中できず、手遊びを始めたり、ボーっとしたり、遊

んでしまったりする子がいる。タッチパネルでは、常に子どもに視線を向けることができる。たかが視線かもしれないが、常に意識していくことで、子どもの中に程良い緊張感があり、集中して楽しく授業に臨むことができている。

また、電子黒板に映像が写ると釘付けになる。

全員を一気に集中させることができる。

(3) 説明なしで音符が覚えられる。

**イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。**

指導要領の第3. 4学年の目標である。説明は行わない。「音楽活動を通して」とあるように、「リズムカレンダー」や「フラッシュカード」を使って用語を覚えていく。

「リズムカレンダー」では音とともに、四分音符や四分休符や八分音符といった図が出てくるので、無理やり「四分音符とは。」などと教えるよりも繰り返しやっていくことで、すんなりと音のリズムが入ってくる。

これを説明すると、とたんに授業がつまらないものになり、音楽なのにあまり歌わない時間をつくりだしてしまいかねない。特に、集中力のない子達にとっては、苦痛のもとになるし、話を聞かなくてもよい時間をつくりだしてしまう。

これがオルガンやメトロノームと違い、大きな利点である。今すぐに成果が出るわけではない。しかし教育とは、先を見越していくものである。今のうちから音符とリズムを一致させておくことで子ども達の中に自然と音が入っていく。

(4) 曲を速やかに流すことができるので、授業のリズムが崩れない。

ピアノを弾けば速やかに曲を流すことは可能だと思う。たまには教師がピアノを弾くことで子ども達は喜ぶ。しかし、ピアノを弾くことの欠点もある。その一つは弾くと手がふさがってしまうことである。リコーダーなど指使いが不安な子にとっては模範が必要になる。その時には電子機器を使って曲を流すことが有効になってくる。

また、授業のリズムを崩さないようにするために、説明や話は前奏の時に行う。空白の時間を与えないようにする。我がクラスには、空白が生じると泣き出したり、歩きだしたりする児童がいる。その子達は、やる事が明確であればきちんと活動を行う。とても一生懸命に行う。だが、少しの時間でもやる事がなかったり、何をしたらいいか分からなくなったりすると勝手な行動をし出す。そのためにも曲を速やかに流すことが必要なのである。

## 6 本時の授業について

### (1) 目標

○大きな声を出したり、頭出して遅れずに歌ったりすることができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の支援・留意点	PC使用
<p>1 リズム打ちをする。(リズムリーダー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出すことで全体を巻き込んでいく。</li> <li>・各自のリコーダー練習の後、教師に視線を向けるためと、全体に指示を出すために、リズム打ちを間を空けずに入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム刻み(電子黒板)</li> </ul>
<p>2 リコーダーを曲に合わせて吹く。 『タヤけこやけ』『小さな花』 『坂道』『雨上がり』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムが狂ったり、間が空いたりすると飽きるので、テンポを崩さずに進める。</li> <li>・活動の間が空いてしまうのをふせぐために、一度全体で吹く。その後にCDに合わせて吹く。できるだけ、操作に時間をかけないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を流す(PC)</li> </ul>
<p>3 リコーダーのきまりの確認をする。 自由の女神(自由の女神!)</p> <p>①構えは?(三角!)</p> <p>②秘密の?(指穴!)</p> <p>③たちつてとの?(タンギング!)</p> <p>「タタタタタ…」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達を巻き込むために、前のめりで行い、身ぶりも加えていく。</li> <li>・子どもにリコーダーの持ち方を浸透させるために、大きな声で復唱させ、確認を入れる。笑顔で巻き込む。</li> </ul>	
<p>4 新譜『雨上がり』</p> <p>①全体</p> <p>②男女</p> <p>③班ごと</p> <p>④CDに合わせて。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体ができるようにするために、全体で何度も真似吹きを行う。</li> <li>・全員が吹けるようにするために、変化のある繰り返しをする。</li> <li>・全員に徹底し巻き込むために、忘れた児童は声をだすように促す。できない子にはそばに行って教師の模範をさせたり、教えたりする。</li> </ul>	
<p>5 真似吹きをする。</p> <p>・「ファ ミ ファ」</p> <p>・「ド レ ド」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な音を出して確認していくことで、正しい音を耳から入れ、正しい音を知るきっかけを作る。</li> </ul>	
<p>6 無の世界を実践する。</p> <p>・音のない世界を作り出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して聞かせるため、一言でも音が出たら止め、移動中も音を出さないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を流す(PC)</li> </ul>
<p>7 今月の歌「里の秋」</p> <p>・大きな声で歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動中も音楽に親しませ、楽しい雰囲気を作るために、曲を流す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を流す(PC)</li> </ul>

<p>8 鑑賞「メヌエット」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮者になり、一拍振りをする。</li> </ul> <p>9 「ふじ山」を聴く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 曲を黙って聴く。(範唱)</li> <li>(2) 小さい声で歌う。(模唱)</li> <li>(3) 歌う。</li> </ol> <p>10 「ふじ山」歌い方の練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 声の出し方の練習をする。</li> <li>(2) 頭出しの練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・息の吸い方の練習をする。</li> </ul> </li> <li>(3) 個別評定をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出だしの声を出す。</li> </ul> </li> <li>(4) ふじ山を全部歌う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から最後まで歌う。</li> </ul> </li> </ol> <p>11 レポートリーソングを歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの歌」から全員で選んだ曲を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の速度の変化に対応できるようにするために、一拍振り（拍に合わせて手を上下に動かす。）を行い、拍感をつかめるようにする。</li> <li>・初めて取り組む歌なので、歌詞の先読みと、教科書を見てもよいことを伝える。</li> <li>・手を顔のそばに置くことで、声の出す方向を確定させる。</li> <li>・全体を評定していき、褒め言葉を入れていくことで何が正しい声の出しかを知らせる。</li> <li>・変化のある繰り返しと具体的な指示で進めていくことで、声の出し方に変化をつける。</li> <li>・初めて歌った時と変化していることに気付かせることで、歌いだしの大切さを理解させる。</li> <li>・歌詞を覚えている、いないなどで分けることで、全員が覚えて歌えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を流す(PC)</li> </ul>
---	---	---